令和３年度　第１回　マリンオープンイノベーションプロジェクト戦略推進委員会　議事録

日時：令和４年２月 15 日（火）13：00～15：00

１　開会

（事務局）

ただいまから、令和３年度マリンオープンイノベーション戦略推進委員会を開催いたします。

会議に先立ちまして、静岡県経済産業部長の三須から御挨拶を申し上げます。三須部長、よろしくお願いいたします。

（三須　静岡県経済産業部長）

静岡県経済産業部長の三須でございます。本日は令和３年度マリンオープンイノベーションプロジェクト戦略推進委員会の開催に当たりまして、大学、研究機関、企業、経済団体、産業支援機関などから多くの委員の皆様に御出席をいただき、誠にありがとうございます。

本委員会は、マリンオープンイノベーションプロジェクトの第一次戦略計画に基づきまして、静岡県が取り組んでいる MaOI プロジェクトの進捗評価を行うことを目的として開催をさせていただきます。

海洋水産分野の産業創出と環境保全を目的といたしまして、令和元年度にスタートしましたこの MaOI プロジェクトですが、これまでに推進機関 MaOI 機構の設立、拠点施設 MaOI-PARC の整備を初め、県内外の大学や研究機関、企業の皆様と連携した研究開発や事業化の支援に取り組んでまいりました。

後ほど事務局の方から詳しく御説明をさせていただきますが、この３年間で 30 件を超える共同研究プロジェクト、８件の事業化の成果が生まれるなど、立ち上げの段階から本格稼働へとプロジェクトのステージが着々と移行しているというふうに考えております。これもひとえに計画検討段階から適切な御指導をいただきました委員の皆様のおかげと、心より御礼を申し上げます。

一方、プロジェクトが持続的に発展していくためには、デジタル化の潮流や新型コロナウィルスの感染拡大など、社会環境の変化を踏まえつつ、より多くの企業や研究者が参画できる拠点となるべく、MaOI の魅力や求心力を一層高める必要があると考えております。

このことから、MaOI 機構の強みであるデータ研究機能の強化や、海洋環境保全、水産資源回復への積極的な貢献など、プロジェクトの高度化を図ってまいります。

委員の皆様には、プロジェクトの今後の展開などにつきまして、ぜひ忌憚のない御意見をいただきたいと思います。限られた時間ではございますが、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）

恐れ入りますが、部長は本日公務の都合によりまして、以上で退席をさせていただきます。

続きまして、委員の皆様を御紹介いたします。時間の都合によりまして、今回新たに委員に御就任いただいた方のみ、御紹介をさせていただきます。大変申しわけございませんが、従来からの委員の皆様につきましては、画面上及び送付しました委員名簿にて御紹介にかえさせていただきます。

それでは、新任の委員の方の皆様を御紹介いたします。恐れ入りますが、お名前を読み上げた委員の方はカメラをオンにしていただけますでしょうか。名簿の順にお呼びいたします。

静岡県立大学副学長の酒井様です。日経ＢＰ総合研究所客員研究員の西沢様です。静岡銀行地方創

生グループ長の浦田様です。清水銀行企画担当部長の土屋様です。静清信用金庫理事の川本様です。清水みなとまちづくり公民連携協議会副会長の髙橋様です。なお、東京工業大学の梶原学長特別補佐、静岡県中小企業団体中央会の田中専務理事は本日御都合により欠席でございます。

２　議　事

令和３年度プロジェクト進捗評価について

（事務局）

それでは、議事に移りたいと思います。これ以降の議事進行につきましては、橋本委員長にお願いいたします。橋本委員長には、初めに御挨拶をいただきまして、以後の進行をお願いできればと存じます。よろしくお願いいたします。

（橋本委員長）

委員長を仰せつかっております東工大橋本でございます。

今日はお忙しい中、先生方、あるいは企業の方、団体の方にお集まりいただきましてありがとうございます。コロナということで、このような形になっておりますけれども、従来は皆さん一堂に会して、かなり大きな委員会でございまして、大きな部屋でやっておったわけですけれども、今回はこのようにZoomで行わせていただきます。

きょうは中間的な評価ということで、これまでの進捗を事務局から御説明いただいて、また皆様から忌憚のない御意見をいただき、今後の方向性についても御議論いただければというふうに考えております。

今、部長から御挨拶ございましたように、設立からほぼ３年たっておりますけれども、計画としては２年目が終わったところで、あと今後３年間、都合５年の戦略がつくられておりますので、来年度、中間的なところで、ここでさらにエンジンをかけて前に進んでいかないと、５年間で所期の成果は望めないということにもなりますので、この委員会は非常に重要な節目だと思います。ぜひ御自由にいろんな御意見、御議論をしていただければと思います。よろしくお願いします。

それでは、まず事務局からこれまでの進捗についての御説明をしていただきます。よろしくお願いします。

（山田　静岡県経済産業部産業革新局産業イノベーション推進課長）

静岡県産業イノベーション推進課長の山田です。どうぞよろしくお願いいたします。画面を共有させていただきます。

令和３年度プロジェクト進捗評価について説明をいたします。

４ページ、MaOIプロジェクトの事業展開のイメージになります。資料の左下、「知」の集積とオープンイノベーションの拠点形成から、左の上、人材育成、地域づくり、世界発信まで、６つがMaOIプロジェクトの戦略の柱になっております。資料の下段がプロジェクトの推進体制、中段が研究開発などの取り組み、上段が目指すプロジェクトの成果を示しております。

５ページはMaOI機構の推進体制になります。松永理事長のもと、五條堀研究所長、橋本統括プロデューサーなどの体制でプロジェクトを進めております。今年度新たにバイオインフォマティシャンを採用するなど、研究体制を強化いたしました。来年度以降につきましても、引き続きプロジェクトの推進体制の強化に努めてまいります。

６ページは、令和３年度の事業実績になります。５月に、データプラットフォームBISHOPや、海洋微生物ライブラリーを公開しました。７月には、事業化検討段階の試作開発等を支援するMaOIフィージビリティースタディを制度創設いたしました。９月には、MaOI機構がコーディネートした水中ドローンを用いた港湾施設点検の実用化実験が、国土交通省の海の次世代モビリティ実証事業に採択されました。１月には、新しい漁業調査船「駿河丸」が完成するなど、プロジェクトは着実に進んでおります。

７ページからは、第１次戦略計画の柱ごとにPDCAサイクルを回しまして、これまでの戦略の進捗評価と、来年度以降に向けた方向性を説明してまいります。

初めに、戦略のⅠ、「知」の集積とオープンイノベーションの拠点形成です。資料の上段、戦略計画の内容は、第１次戦略計画の内容を転記しておりますので、説明は省略します。

中段、取組実績ですけれども、産学官金のネットワークMaOIフォーラムの会員拡大や、TECH BEAT Shizuokaと連携したビジネスマッチングなどに取り組みました。その結果、令和４年１月末時点のMaOIフォーラムの会員数は121会員となっております。

進捗評価でありますけれども、数値目標であるフォーラム会員数は、新型コロナの影響で新規の企業訪問ができなかったことなどから、進捗に遅れがあります。来年度以降に向けましては、事業化成果の紹介など、プロジェクトの有益性を訴求することによりまして、会員の拡大に努めてまいります。

８ページは、MaOIフォーラムやMaOIサロンの開催の実績の紹介です。左側、フォーラムにつきましては４回、サロンは２回開催する予定となっております。

右側につきましては、静岡県と静岡銀行が中心となりまして、県内事業者と首都圏のスタートアップを促すビジネスマッチングイベント、TECH BEAT Shizuokaの様子でございます。今年度は農林水産分野に特化した分野版ということで開催をいたしました。MaOIプロジェクトの連携の一環といたしまして、MaOI-PARCからオンラインで配信をしたところです。

９ページは、戦略Ⅱ、オープンデータ・オープンサイエンスの推進です。取組実績ですけれども、駿河湾等のさまざまなデータを収集するデータプラットフォームBISHOPを公開し、運用を開始いたしました。また、海洋微生物ライブラリーも公開し、目標を上回る９件の利用がございました。

進捗評価ですけれども、おおむね順調に進捗していると考えております。来年度以降に向けましては、調査船「駿河丸」を活用した海洋微生物資源等の採取を進めるほか、データ駆動型の研究開発・産業応用を支援するため、BISHOPのデータ解析機能の強化と研究体制の拡充を図ってまいります。

10ページは、オープンデータプラットフォームBISHOPの概要です。MaOI機構が中心となり、県の公設試験研究機関、大学等と実施した海洋に関する共同研究のデータをBISHOPに蓄積し、オープンデータとして活用しております。資料の右側は活用例の１つとして、沼津市内浦地区で発生した養殖アジの大量へい死の原因を究明した事例となっています。

11ページは、海洋微生物ライブラリーの概要です。海洋由来の微生物を活用した県内企業の製品開発を促進するため、ライブラリーを整備いたしました。現在、企業ニーズが高い乳酸菌や酵母を784株公開し、分譲をしております。資料の右下はライブラリーの菌株を利用した製品開発等の実績です。食品分野を中心に利用が進んでおります。

12ページは、戦略Ⅲ、拠点・プラットフォームの整備と活用です。取組実績ですが、令和２年11月に開所した拠点施設MaOI-PARCは、大学や企業等の皆様の研究開発に利用をいただいております。また、今年度新しい調査船「駿河丸」の建造、令和５年度に供用を開始する温水利用研究センター沼津分場の量産実証施設の設計などを今年度進めました。数値目標であるデータベース利用件数は、１

月末時点で6,663pvで、目標の1,500pvを大きく上回っております。進捗評価ですが、おおむね順調に進捗していると考えております。

来年度以降につきましては、実証フィールドとして温水利用研究センター沼津分場の整備を進め、拠点機能を強化するとともに、大学や研究機関、事業者の利用促進等に取り組んでまいります。

13ページは、海洋調査船「駿河丸」の概要です。令和4年1月、沿岸・沖合漁業指導調査船として、新しい「駿河丸」が完成いたしました。右の図にありますとおり、水深2,000mまでの水質観測や採水ができる採水器や、水深500mまで対応する水中ビデオカメラロボットなど、新しい機能が追加されております。

14ページは、温水利用研究センター沼津分場の概要になります。水産資源を増大する量産実証の研究拠点として再整備を現在進めております。資料の左下、施設の南側にあります量産実証棟を先行整備しており、来年度に完成、令和５年度から供用を開始する予定です。

15ページは、戦略Ⅳ、研究開発領域の重点化です。取組実績ですが、大学への委託によるシーズ創出研究、MaOI機構と大学、企業等との共同研究を進めております。この結果、プロジェクトにおける共同研究等件数は32件で、目標を上回っております。進捗評価ですが、おおむね順調に進捗していると考えております。

来年度に向けましては、新たな研究テーマの掘り起こしや、国のプロジェクトなどの外部資金の確保に努めるほか、県が新しく設置する美しく豊かな海保全基金を活用し、水産資源回復に資する研究を強化してまいります。

16ページは、シーズ創出研究委託の概要になります。本県の場の力を生かした独自の技術シーズを創出するため、公募型の研究委託を実施しております。令和元年度以降10テーマの研究に取り組み、令和３年度までに５テーマが完了する予定です。完了するテーマにつきましては、得られた知見を情報発信するほか、さらなる研究の継続や、企業等と連携した製品化、事業化などを目指してまいります。

17ページは、BISHOP研究の概要になります。MaOI機構が主体となり、大学や研究機関、企業等との共同研究を実施しております。早稲田大学、東海大学などと９テーマの研究などに取り組んでおります。研究によって得られた知見は、データプラットフォームBISHOPに蓄積するなど、幅広く活用してまいります。

18ページは、県の公設試験研究機関によるマリンバイオ研究の概要になります。静岡県が設置する水産海洋技術研究所をはじめ、５つの研究所とMaOI機構が連携し、海洋微生物ライブラリーの微生物を用いた食品開発技術の研究を実施しております。資料の左下の表は、各研究所が企業と共同して開発を進めている新たな食品になります。

19ページは、戦略Ⅴ、産学官金連携による産業応用の推進です。取組実績ですが、企業を中心とした事業化の取組みを支援する事業化促進助成、工学系の海洋技術開発促進助成のほか、新たに事業可能性調査への補助制度を新設し、事業化の支援を強化いたしました。その結果、プロジェクト事業化件数は累計８件と、目標を上回っております。

進捗評価ですが、おおむね順調に進捗していると考えております。

来年度以降に向けましては、事業の製品化を支援するとともに、コーディネーターの企業訪問等を通じまして、事業化の掘り起こしを進めてまいります。また、海洋プラスチック問題対策として、プラスチック代替素材製品の開発・事業化の支援を強化してまいります。

20ページは、事業化促進助成の内容になります。令和元年度以降７テーマを採択し、このうち２

件が具体的な事業化成果につながっています。今後、他のテーマについても事業化が予定をされております。

21ページは、海洋技術開発促進助成、MaOIフィージビリティー・スタディの内容になります。工学系情報系の海洋技術促進開発助成については、令和２年度以降３テーマを採択しております。　また、事業化可能性調査を支援するMaOIフィージビリティー・スタディについては、本年度５テーマを採択いたしました。

22ページは、令和３年度のプロジェクトの事業化の成果になります。海洋微生物を活用して開発したラーメンスープのエキスや、大豆ヨーグルト、調味料など、プロジェクトの早期事業化のターゲットとしている食品分野から５件の事業化成果を創出しました。ラーメンや唐揚げ用調味料につきましては、干物をつくる際に漬け込む塩汁や、カツオの腸内から発見した乳酸菌を活用し、エキスを抽出しております。ヒスタミンの抑制やうま味成分の増加などが特徴になっております。また大豆ヨーグルトにつきましては、浜名湖の海苔由来の乳酸菌を活用し、GABAの増加や抗酸化作用に加え、大豆特有の臭みを消すなどの効果が特徴となっております。

23ページは、MaOI機構のコーディネーターによるマッチングの事例です。新商品の開発や新規事業の開拓に積極的な企業を中心に、信用金庫等の金融機関と連携して、企業訪問をしております。

企業マッチングの事例といたしましては、藻類生産企業の県内進出要望への対応や、水中ドローンの実証フィールドの調整などを実施いたしました。

24ページは、戦略Ⅵ、人材育成・地域づくり・世界発信です。取組実績ですが、国際展示会へ出展、あるいは海外の海洋産業クラスターとの連携体制の構築に取り組んでおります。また、美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会を運営しまして、海に関する活動を行う団体の支援などに取り組んでおります。

進捗評価ですが、おおむね順調に進捗していると考えております。

来年度以降に向けましては、ローカルとグローバルの両面でネットワークを強化・拡大するほか、県が新設する美しく豊かな海保全基金を活用し、つなぐ会の活動を強化してまいります。

25ページは、美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会の内容になります。世界に誇る静岡の海を未来に引き継ぐため、個人・企業・団体等の連携と協働を推進することを目的として設立をしております。MaOI機構が事務局を担い、１月末時点で会員数は206会員となっております。海の森づくり体験教室のほか、静岡の海PR大使を任命し、ツイッターで情報発信するなど、海洋をテーマとしたネットワークの構築に向けて、さまざまな活動を展開しています。

26ページの左側、海外Blue Techクラスターとの連携の御紹介です。アメリカ・サンディエゴで毎年開催される海洋産業クラスターの国際会議Blue Tech Weekにオンライン参加いたしました。右側は国際コンベンションへの参加の事例です。神戸市で開催されている海洋分野の国際コンベンションTechno-Ocean 2021にMaOIとして初めて参加をいたしました。

以上で、MaOIプロジェクトの進捗状況についての説明を終わります。

続きまして最後に、情報提供ということで、スルガベイ・シミュレータの御紹介をさせていただきます。県のくらし・環境部では、今年度、静岡の海の生態系の保全と持続的な利活用に向けた実践活動につなげるため、森林から河川、海域に至る水と栄養物質等のつながりを推定するシミュレーションモデル、スルガベイ・シミュレータ（仮称）を構築いたしました。スルガベイ・シミュレータは、陸域モデルと海域モデルで構成されています。来年度には海の生態系の保全等に関する研究の発展に寄与できるよう、モデルを広く利用できる体制を整えてまいります。以上で説明を終わります。

（橋本委員長）
　それでは、これから意見交換に移りたいと思います。まず、御自由に御質問なり、御意見がありましたら受け付けたいと思いますので、このZoomですとリアクションのところを押すと手を挙げる機能がありますので、手を挙げていただくか、あるいは声を出していただければ御発言いただけますので、どなたかございますでしょうか。では東海大の齋藤先生、お願いします。

（齋藤 寛　委員・東海大学海洋学部長）
　東海大学の斉藤でございます。御説明いろいろとありがとうございました。
　最後の資料のスルガベイ・シミュレータ、これはちょっと初めてお目にかかったといいますか、聞いたものなんですけれども、どちらでどのように手続きをとれば、使えるのでしょうか。

（橋本委員長）
　事務局の方で御説明できますか。

（事務局）
　事務局から御説明いたします。こちらのシミュレータ、一応今年度整備、構築を県の環境部局の方でやっておりまして、方針としては来年度、研究に使っていただくということでオープンにしていくという方向でおるんですけれども、今具体的な手続き等は整備中でございます。また来年度、整ったところで御案内申し上げたいと思っております。

（齋藤 寛　委員・東海大学海洋学部長）
　ありがとうございます。実は先日、東海大学とMaOI機構の方で包括協定を結ばせていただくような段取りをしておりまして、その流れの一環で、今現在私どもの方が富士川河口から流れてくる土砂について分析をしながら、堆積物の中にいる微生物もどうなっているんだろうかなんていう話をしながら、そういった研究を進めていこうと話しました。ちょうどこの「陸域モデルと海域モデル」、これが合わさったような形の研究ができるのかなというところで、非常に興味深い絵だったものですから、また今後とも御協力できる部分があればと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

（橋本委員長）
　ありがとうございます。今の件は非常に重要な御指摘なので、またほかの委員の先生方の御意見も踏まえて議論したいと思います。理研の守屋先生、お願いします。

（守屋 繁春　委員・理化学研究所環境資源科学研究センター専任研究員）
　僕も２点質問があって、まずはスルガベイ・シミュレータなんですが、これは僕もこれすごく興味があって、例えば僕の場合だと、データ同化みたいなので、非常にリアルな、まさにその場をシミュレーションするということをやってみたいなというふうなことを考えていて、ぜひ関わってみたいなと思っています。シミュレーションは、モデルをどういうのを使っているのかとかによって、大分変わってくると思うので、何かワークショップのようなものを企画していただけると、とてもありがたいなと思います。
　もう１つは、調査船「駿河丸」なんですけれども、僕自身、何かどこかサンプリングに行くときに

は、漁船を用船していて、漁船の用船というのもそれなりにとても重要だと思っていて、それはそれでいいと思うんですけれども、非常に高度な研究ができる調査船があるというのは、非常に心強いかなと思っていて、先ほどのスルガベイ・シミュレータと同じですけれども、使えるものに関する利用条件を簡単に概観できるようなウェブサイトとかがあるようでしたら教えてください。

（鈴木　水産振興課主査）
水産振興課鈴木と申します。駿河丸についてなんですけれども、今ちょっと使用に関するルールはまだ未整備の状態ですので、これにつきましても改めてルールも含めて検討した上で御回答させていただければと思います。

（守屋 繁春　委員・理化学研究所環境資源科学研究センター専任研究員）
多分船って、みんな使いたくて、使いたくてたまらないんですけれども、シップタイムが限られていてというので、駿河丸は、非常にアトラクティブフォースになると思うので、ぜひ整備していただければと思います。ありがとうございます。委員長、意見は、また別に言う機会がありますか。

（橋本委員長）
今でもいいですよ、どうぞ。

（守屋 繁春　委員・理化学研究所環境資源科学研究センター専任研究員）
いろいろなアイデアを集めるというフェーズに入りつつあるという話をされていたと思うんですけれども、共同研究とかでピンポイントでやるのももちろんいいと思うんですけれども、もっとすごくフリーに施設とか解析システムなんかを使えるような仕組みというのがあった方がいいかなと思います。
何かターゲットを選択して、集中していくためには、元々好奇心に駆動されて出てきた豊富なアイデアのバックグラウンドがあるというのは、どうしても絶対に必要だと思うんですね。いきなり最初から選択集中でうまくいくわけがないと思うんですよ。
その駿河丸にしても、シミュレータにしてもそうですし、それ以外の例えば拠点とか、あとMaOI-PARCの方にいろいろな機器なんかがあったりするのを僕割と知っているんですけれども、そういったものを例えば友の会みたいなものがあるみたいですけれども、そのメンバーは非常に簡単な予約で待ち時間なく使っていけるみたいな仕組みがあればいいなと思います。
今もそうしていると思われていると思うんですけれども、ちょっといろいろと聞いたところによると、いろいろと手続きが大変みたいな話も聞いたりするので、例えば試薬やサンプル持ち込みで簡単にできるような仕組みがあると、アイデアを吸引する力が、アトラクティブフォースが非常に高まると思うので、ぜひ検討していただければと思います。

（橋本委員長）
ありがとうございます。元々このMaOIというのは、まさにオープンイノベーションをうたっているので、先生のような御指摘、御希望に添った形でMaOI-PARCを運営すべきだと思いますし、BISHOPというデータベースもそうですけれども、それの利用、あるいは研究施設の利用ですね。キャパが限られているので、船もそうなんですけれども、そんなに何でもかんでもというわけにはいかないかも

しれませんけれども、基本的にはオープンに使っていただいて、お互い高め合うということを目標としているということだと思います。具体的な運用については、まだ問題がたくさんあると思いますので、個別に解決していくべきことだと思いますので、引き続き御意見等をいただければ幸いです。

（守屋 繁春　委員・理化学研究所環境資源科学研究センター専任研究員）
　僕も多分 AOI の方でこれからもっと深く関わっていくので、お手伝いできたらと思います。ありがとうございました。

（橋本委員長）
　ありがとうございます。竹山先生、どうぞ。

（竹山 春子　委員・早稲田大学理工学術院教授／マリンバイオテクノロジー学会理事）
　今日いろいろと総括的なお話を伺って、スタートしてからまだ数年というところで、結構精力的にいっているんだなということと、時代の背景から、いわゆる DX 的な環境にしてもそうですし、ビジネスを興すにしても、やはり手元にいろんな情報を持ってないといけないということで、流行の DX、駿河湾 DX というのが、割と今キーワードになってきていると思うんですけど、それをどうやって動かすかというところで、スルガベイ・シミュレータというのは、私も非常に興味があり、いろいろとこんなことができますよということを是非、公開してやっていただきたいなと思います。
　シミュレーションをやっている人たちからすると、既存のシミュレータの拡張性というのがどれだけあるかというのが大きくて、使うだけじゃなくて、今後の拡張性に関してもビジョンをぜひ広げていただいて、駿河湾 DX というのを世界に発信するということが重要だと思います。
　質問としては、今、世の中的にはブルーテックがあって、ブルーカーボンという概念があって、日本の中で駿河湾という多様性の高いところから、どういうふうに世界に発信するかということが重要だと思います。国際フォーラムに御参加されて、コロナだったから難しかったということが多かったと思うんですけれども、今後海外の重要な拠点との連携、こういうブルーテックを日本の代表としてどういうふうな連携をしていくかというようなビジョンがおありになれば、もう少し教えていただければなと思います。そのときにやっぱり世界に伍するだけのデータであり、実績というのが重要になってくると思います。

（橋本委員長）
　ありがとうございます。今のその世界とのネットワークですね、これについて何か事務局の方でコメントありますか。

（渡邉 眞一郎　MaOI 機構専務理事兼事務局長）
　先ほど山田課長の方からも御紹介がありましたが、現在海外とのつながりについては、サンディエゴに拠点を置かれている産業クラスター、そちらとその傘下にいられる企業様等々とのコミュニケーションというのを持っておりまして、たまさかその御縁もありまして、在阪のアメリカ商務省、そちらとも少しコミュニケーションがあるというふうなところがございます。
　今後コロナ等々もあるわけですけれども、そういったところをとっかかりにして、いわゆるブルーテックのクラスターの他のグループ、そういったところとのお付き合いというのも深めてまいりたい

というふうに考えているところであります。

（橋本委員長）
　ありがとうございます。海外とのネットワークは、設立当初からちゃんと戦略ビジョンにも入っているんですけれども、コロナもあって、ちょっと活動が停滞しているというか、年に１、２回に限られているので、今後はまずそのブルーテッククラスターとの関係、それからアジアでもこういったブルーテックとブルーカーボンに注目したクラスターがありますので、そういうところと連携すべきかどうか、可能かどうかも含めて深掘りしていきたいと思います。それから先ほどのシミュレータのような大がかりな研究というのは世界中でやられていると思いますので、今日お集まりの先生方にも御指摘いただきましたが、そういった研究者のネットワークにぜひ参加させていただいて、駿河湾 DX の進展を世界に発信できればというふうに思いますが、その辺はまたちょっと今の戦略ビジョンに入っていないところですので、きょうの御議論を踏まえて、県の方でも検討していただければと思います。どうもありがとうございます。
　ほかにこの段階で御質問、御意見ございますか。今日、大体 30 名ぐらいの委員に御参加いただいていまして、今数人の委員から御質問等ありましたけれども、改めて名簿のもとにぜひお１人１回ぐらいは御発言いただきたいと思います。当方で恐縮ですけれども、御指名をさせていただきます。いつも名簿の上からやっているので、今日は名簿のお尻からやらせていただきたいと思いますので、申し訳ございませんが、今回初の御参加なんですけれども、清水みなとまちづくりの副会長の髙橋様、よろしければ何らかのコメントをいただければと思います。

（髙橋 明彦　委員・清水みなとまちづくり公民連携協議会副会長）
　正直言って、まだ私自身も皆さん方の活動の中、十分に理解できてないところがございますので、現時点ではこれというような、意見の方はございません。

（橋本委員長）
　わかりました。清水にありますので、ぜひ現場も御覧になっていただいて、理解を深めていただければと思います。ありがとうございます。静岡市の大村部長、よろしくお願い足します。

（大村 博　委員・静岡市経済局次長兼商工部長）
　私ども MaOI さんと連携事業というのをやらせていただいております。研究部門は我々のところでも薄いところでございますので、ぜひとも今後も情報交換等をさせていただければというふうに思っております。

（橋本委員長）
　わかりました。引き続き、いろいろ情報交換とか御議論させていただければと思います。ありがとうございます。
　引き続きまして、MaOI のお仲間であるいろんな支援機関の方々から御意見、これは先輩たちが多いので、忌憚のない厳しい意見も含めていただければと思います。
　浜松のフォトンの伊東先生、いつもいろんな御意見いただくので、お願いします。

（伊東 幸宏　委員・浜松地域イノベーション推進機構フォトンバレーセンター長）
　前回のときにアカデミアンぽいというようなことを申し上げてしまったが、今日の御説明で、新規事業等もいろいろとできており、発展しているということで、安心いたしました。ぜひこの方向をもっと強化していただきたいと思います。
　あと、データベースも順調に進んでいるようで、大変結構なことだと思います。

（橋本委員長）
　ありがとうございます。浜松との連携もかなり模索をしていらっしゃると思うので、また伊東センター長にも御協力いただいて、いろんな連携ができればというふうに考えております。特に浜松は金融機関とかVCとかを浜松市と一緒にやられているところがすごくうらやましいので、またぜひいろいろ教えていただきたいと思います。

（橋本委員長）
　次に、静岡のフーズ・ヘルスケアオープンイノベーションセンターの望月センター長、お願いします。

（望月 誠　委員・静岡県産業振興財団フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションセンター長）
　MaOIさんには水産系の食品や化粧品の研究開発への助成、いろいろやっていただきましてありがとうございます。いろいろ事業化、製品化できても、やはり最終的には売れなければ企業としては困りますので、我々の方で販路開拓への支援をやっておりますので、ぜひまた今後とも一緒に連携をさせていただきながら、やらせていただければなと思っております。
　次に、第２点目なんですけれども、水産資源の安定確保というのが非常に今課題になっておりまして、水産王国と静岡県は言われていますが、養殖の関係については、必ずしもそんなに多くない状況です。そういう中で温水利用研究センターの沼津分場が整備されるというのは、非常に期待をされるわけで、そういったことを進められるということを非常に我々の方では希望をしております。
　また、陸上養殖の関係ですね、三保サーモンの支援なんかもやっていただいていますが、引き続きこの内水面の関係も含めてやっていただければなと思っております。
　それと最後なんですけど、最近加工食品の成分表示の規制というか、表示が非常に求められてきて、厳しくなってきている部分があります。最近は熊本産のアサリの産地偽装みたいな話があり、静岡だと浜名湖のアサリって有名なんですけど、アサリ等を使って商品をつくっている食品加工事業者も県内にいるわけで、産地証明の体制を静岡県としてどんな形で対応していくかというのが求められるんじゃないかなと思っております。

（橋本委員長）
　ありがとうございます。今の産地証明について、何か県の方で知見ございますか。急に言われてもあれですかね。すごく重要な指摘だと思いますので、例えばMaOIですと、遺伝子を扱っていますので、その産地証明を科学的にできるような体制もできると思いますので、コストの問題は別途あると思いますが、ぜひ検討していきたいと思います。どうもありがとうございます。
　次に、ファルマバレーの大須賀専務、お願いします。

（大須賀 淑郎　委員･ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバレーセンター副理事長兼専務理事）
このプロジェクトがスタートして３年くらいというお話だったんですけれども、きょうの説明を聞きまして、活力というものを感じましたし、順調に上昇気流に乗っているなということを感じました。これも関係の皆さんの御努力の賜物ということで敬意を表する次第でございます。
私どものファルマバレープロジェクトなんですけれども、来年度、実はスタートして20年目ということでございます。ところが今、私としてプロジェクトの停滞感というものをちょっと感じております。私どもの方も、最初の段階では企業の興味も引きまして、成果もそれなりに大きいもの、小さいもの出てきたんですけれども、20年近くもたちますと、やはり何となくファルマバレーセンターも、そして地域の企業も、そして県民の皆さんも、マンネリ感みたいなものが働いてきているということは確かだというふうに思います。
そこで、MaOI機構さんに先輩クラスターとしてちょっと申し上げておきたいのは、これから常に企業や県民の耳目を集めるような成果を、これは大きいものはもちろん結構なんですが、小さいものでも結構ですので、そういう成果を継続して出していくということ、それを県民の皆さんにアピールをしていくというそういったことをぜひ実現していっていただきたいと思います。機構の皆さんには、そのための具体的な戦略をこれからも練り続けていただきたいというふうに思います。

（橋本委員長）
大変貴重な御意見、どうもありがとうございます。ファルマのようにいけばいいんですけれども、先輩を見習って、なるべくたくさんの成果が出せるように、みんなで頑張っていただきたいと思います。どうもありがとうございます。
次は、静岡県産業振興財団の池田専務、お願いします。

（池田 和久　委員・静岡県産業振興財団副理事長兼専務理事）
非常に幅広い業務をやられておりまして、敬意を表するんですけれども、これからはやはり県内企業への波及効果というのが大きな課題になってくるかと思いますけれども、うちの財団では、創業に対する経費の支援であるとか、専門家の派遣、海外特許の取得のための補助金であるとか、幅広くいろんな支援制度がございますので、活用していただきたいと思います。
それで、各いろんな団体がいろんな補助金を持っていて、非常にわかりづらいということがございまして、ことしの１月から県から受託をしておりますけれども、産業創造プラットフォームというのを今立ち上げております。こちらの方を御覧いただければ、国、県、各団体の支援制度、あるいはセミナー等の情報が一目でわかるようになっておりますので、またぜひ御活用いただきたいと思います。
それから、県民であるとか、あるいは県内中小企業にこの取り組みを知ってもらうためには、ちょっと思いつきな提案ですが、MaOIプロジェクトという名前が、そもそもMaOIというのが略称ですよね。マリンオープンイノベーション、横文字であって、なおかつそれが省略語だものですから、研究者の方にもわかりやすいのかもしれませんが、一般県民、あるいは一般の中小企業の方にこの機構の取り組みを知ってもらうためには、俗称といいますか、駿河湾機構とか、何かそういう名前をつくってみたらいかがかと、ちょっと提案でございます。

（橋本委員長）
貴重な御意見ありがとうございます。MaOIの名前には経緯があって、軽々に触れないんですが、

おっしゃるとおり、さっき御議論あった駿河湾DXとか、BISHOPというのも、我々にとってはいいんですけれども、わかりにくいのかもしれません。何か駿河湾とか静岡とか、何かそういうのがわかるような俗称なり愛称があるといいなと、おっしゃるとおりですね。

それから、財団の今御活動をいろいろ御紹介いただきましたので、ぜひMaOI機構の方でコーディネーターもたくさんおられて活動されていますので、よく連携をとらせていただいて、一緒に活動できればと思います。よろしくお願いします。どうもありがとうございます。

では、次に金融機関の方々に御参加いただいておりますので、順番に御発言なり、御質問なりいただきたいと思います。まず、しずおか焼津信用金庫の岩﨑理事、お願いします。

（岩﨑 浩季　委員・しずおか焼津信用金庫理事／お客様サポート部長）

それこそ日ごろは大変皆様に御指導頂戴しましてありがとうございます。今回プロジェクトの進捗につきまして御説明頂戴しました。非常に皆様御尽力されておられる様子がよくわかりまして、成果も着実に得られておられるということでございました。そんな中で金融機関がどのように貢献していくかというところを、改めて考えておるところでございます。

そんな中に、やはり産学官と金の連携によるところの何らかの貢献というのが最も期待されておるんだろうなと思います。特に今コロナ禍の中の本業の支援というところも絡んでまいりまして、やはり新商品の開発であるとか、事業の開拓、またそういった取り組みであるとか、商品をいかに世に出していくか、ビジネスベースに乗せていくか、そういったことを金融機関としてお手伝いするところは多分にあるであろうと思っております。

そういったことの中では、やはり機構の皆さんとの連携、そういったところがまだまだ金融機関不十分だと反省しておりますし、また理解も我々としては十分できていないところも多分にあるなと反省しております。

したがいまして、これからさらに皆様の取り組み、MaOIの取り組みを深めていく中での連携強化、そういったことが非常に大きなポイントにもなってくるんだろうなと考えておりますので、またさまざまな皆様との接触機会、それを増やしていく中で、また御指導賜って、何らかの貢献につなげて考えております。よろしくお願いいたします。

（橋本委員長）

力強いコメントどうもありがとうございます。引き続き、静清信用金庫の川本様から御意見を伺った上で、渡邉専務に今の件、コメントしてもらいたいと思います。先に川本理事、お願いします。

（川本 晋輔　委員・静清信用金庫理事／経営相談部長）

すみません、今回初めて参加になりますので、的外れなことも申し上げるかもしれませんが、御容赦いただきたいと思います。

我々金融機関の人間は、先ほど先生方がお話になられましたような学術的なことですとか、専門的なことにつきましては、非常に疎くてよくわからないというところが本音なんですけれども、我々ができることは、お取引先の販路開拓、ここに専心をしていくところでございまして、中小企業なり地域企業が販路開拓をしていく上では、できるだけいろんな武器が欲しい。その中には専門家の皆さんの学術的知見というのは非常に大きな武器になるんですね。

ただ、一般の企業の皆さんがどこに行ったらそれを得られるのか、どういうアプローチをしたらい

いのか、全くわからない。我々が間に立ってできることはやっていくんですが、そもそもそういうお客様がどこにいて、どうやってその情報を１つの形にして、どこに持ち込むようにするのかという案件づくりのところが非常に難しゅうございます。

先ほどのスルガベイ・シミュレータですとか、駿河丸さんの建造とかで何ができるんだというものは、少しでも海洋とか水産に絡んでいる事業者さんはわかるかもしれない。ただ我々金融機関の人間はわからないので、金融機関の人間がお取引先に持っていけるような形のインターフェースになるツールなんかも御用意していただけると、橋渡しがしやすいのかなと思いました。

また、先ほど、産業創造プラットフォームのお話がございました補助金のお話です。こういったたぐいは非常にモチベーションが高まります、お取引先の。なので、こういったものもできるだけ活用をして、何ができるよ、これについてはこういう補助金がつくよ、だからやってみないかというような形でお届けできるようになればいいなと思いました。

（橋本委員長）

ありがとうございます。今何人かの委員からいろいろ連携について御指摘がありましたので、渡邉専務、何かコメントがございますか。

（渡邉 眞一郎　MaOI 機構専務理事兼事務局長）

今、金融機関２行の皆様からのお話をいただきました。ありがとうございます。私どもコーディネーターがおりまして、今回のスライドの 23 枚目ですか、コーディネーターによる企業訪問という活動もさせていただいておりますが、我々この仕事を始めて、企業様を訪問させていただいて、しみじみ思いましたのは、どこのだれともわからない「MaOI 機構でございます」とお邪魔をしましても、なかなか経営の琴線に触れるようなお話というのはしていただけない。すなわち新しい商品を開発をしたい、あるいは自分たちの事業の課題についてコメント等々伺いたいという話をしても、なかなかそういったことについては軽々にはお話をいただけない。

そんな折に金融機関の皆様、御営業の皆様が、お取引先の皆様とのお話の中でそういった投げかけがあるというふうなところも伺いまして、その営業の皆様がお取引様からいただく宿題、課題というものをぜひ私どもの方にお教えいただけないだろうかというふうなことで、一部信金の皆様、あるいは地元の金融機関の皆様とコミュニケーションをさせていただいて、御営業の方々と御一緒に私どもコーディネーターがお邪魔をし、その課題、あるいは新しい商品への取り組みについてのお悩み事、そこを聞かせていただいて、その解決に役立つような制度であったり、あるいはアカデミアの皆様の知見であったり、研究機関との連携であったり、そういったところを私どもの方でワンストップで御提供する、こんな取り組みを今させていただいておりまして、少しずつ実績が広がっているというところがございます。

今、２行様から連携という言葉がいただきました。あるいはパッケージで情報をいただけるという話もございましたけれども、そういったところのコミュニケーションについて、また改めて御訪問させていただきまして、各行の皆様にも御説明申し上げたいと思っておりますけれども、ぜひぜひ金融機関、御営業の方との連携というふうなことが、引き続き構築させていただければありがたい、このように思っている次第です。

（橋本委員長）
ありがとうございました。引き続き連携を進めていくということで理解いたしました。
時間がありません。引き続き、清水銀行の土屋様、お願いいたします。

（土屋 昭　委員・清水銀行経営企画部企画担当部長）
私も今回から初めて参加させてもらっているんですけれども、今信用金庫様の２行様から発表いただきましたとおり、やはり連携が金融機関には求められていると思います。本業支援から始まっている経営改善ですよね。それと事業再生、事業転換、こういった取り組みが金融機関には求められているものですから、これまでもやってきているところです。
私は昨年の４月からこの部署に来まして、前任が沼津の下香貫というところ、海に近いんですけれども、そこの支店長をやっておりまして、お客様回りもしておったわけですけれども、やはり水産関係のお客様非常に多うございまして、なかなか今、どなたかの先生もおっしゃっていましたけれども、ちょっと魚の方が非常に不漁が続いているといったところもあって、いろんな事業転換、どんなことをやっていこうか。加工品にしても、いろいろと工夫しながら、どんなことでやっていこうかというようなことも、非常に苦労されてやっておられました。
そこに金融機関としてどんな手助けができるかといったことをいろいろ考えてきたわけですけれども、本当に恥ずかしながらこういったMaOI機構さんの存在も正直知らなかったものですから、ここの本部の立場になりましたものですから、こういった機構さんのさまざまな取り組み、いろんな方々の取り組み、そういったものを本部の立場から営業店の方に紹介していきながら、連携度合いを高めていけたら、皆さんがウィンウィンの関係になれていくんじゃないのかなと思いましたので、今後ともよろしくお願いしたいなと思いました。

（橋本委員長）
ありがとうございます。清水銀行さんは本店がMaOI機構のすぐ近くですので、ぜひよろしくお願いします。
静岡銀行の浦田様、お願いいたします。

（浦田 学　委員・静岡銀行地方創生部地方創生グループ長）
私も先月、現在のポジションに異動してまいりまして、今回初めて参加をさせていただきました。ほかの各行様おっしゃるとおり、私どもにとりましては、お客様から思わぬほどに幅広い御相談を頂戴しておりますので、そういった際にいろいろな御専門の方におつなぎできるというのが一番ありがたいところでございます。
今日お聞きしていた中では、私どものお世話になっておりますお客様のお名前も出ておりましたり、先ほどお話しいただきましたコーディネーターの方の御存在も大変ありがたい仕組みだと思っております。ぜひともまた今後ともお力添えをいただければと思いますし、そういった意味では、例えば大変素人でお恥ずかしいんですが、コーディネーターの方々ですとか、どういった御経歴、どういった御専門ですとか、よりかみ砕いた素人向けに、こんな御相談に乗れますよというようなメニュー的なものがあれば、我々としても大変助かるかなという気はいたしました。ぜひまた今後ともよろしくお願いいたします。

（橋本委員長）
ありがとうございます。静岡銀行様ともいろいろ連携をしていきたいと思います。
次に、産業界の方々から御意見をいただきたいと思います。初めに、静岡市海洋産業クラスター協議会の会長によろしくお願いいたします。

（上妻 親司　委員・静岡市海洋産業クラスター協議会長）
先ほど来話がございますように、MaOI 様の活動が３年間ぐらい経過、当初からたった状態だということを伺って、活動の内容の説明もいただきましたけれども、大変活発に活動されているというそういう印象を受けました。
当初より、私どもの静岡市としての海洋産業クラスターの活動も似たような活動をやってますので、より連携をさせていただきながらやっていきたいということを当初から申し上げておりますけれども、こういうコロナの状況の中で、なかなか連携がそうスムーズに進まないという状況下ではありますけれども、気持ちとしてはとにかく一緒にやらせていただきたい。
特に、駿河湾のサクラエビの漁業に関しては、不振な状態から、どういう原因があるかということも、MaOI さんと連携しながら、我々の活動のメインとしてやらせていただきますので、もう少し一緒にコミュニケーションをつけながら、その辺の活動も含めて連携しながらやらせていただきたいと、そんな思いでおります。
大変我々静岡市としても活動はしておりますけれども、MaOI さんのお役に立つような形になってないかもしれません。今後とも一生懸命やらせていただきますので、よろしくお願いをしたいと思います。

（橋本委員長）
ありがとうございます。引き続きよろしくお願いいたします。
次に、静岡県商工会連合会の窪田専務、お願いします。

（窪田 賢一　委員・静岡県商工会連合会専務理事）
いつもお世話になります。駿河湾というのは世界有数の生物多様性があるということで、これをニュービジネスにつなげるという事業で、先ほどの PDCA でも、おおむね順調に進捗しているということの報告がありまして、誠にありがとうございます。
まず新型コロナウィルスの関係なんですが、東京在住の人が減少してきているということですから、こういうチャンスに、是非とも静岡県にこういう研究所、専門家の方がいらっしゃる研究所等が立地してくれることを希望しています。また、この新型コロナウィルス患者のために、コロナ菌を退治するために、医療機関を中心とした各機関が連携して今治療してくれている訳で、このシステムというか、この仕組みを MaOI プロジェクトに取り組みをしていただいてもらえるとうれしいなと思います。
そして、我々は小規模企業で、小さい企業でありますので、大量生産というものができません。そこで、商品化をするときに、小さいロットでも参加できるような形になればうれしいなということを思っております。
そういう中で、まずは我々にできることというのは、海洋プラスチックごみ防止、きれいな駿河湾の海を守っていく、生物を守っていくために、海洋プラスチックごみ防止に我々は力を入れていきたいと、このように考えております。

（橋本委員長）
貴重な御提言ありがとうございました。海洋プラスチックごみ問題は本当に大事な問題なので、引き続き検討して連携させていただければと思います。ありがとうございました。
次に、県の商工会議所連合会の中村専務、お願いします。

（中村 泰昌　委員・静岡県商工会議所連合会専務理事兼事務局長）
本日、マリンオープンイノベーションプロジェクトの進捗状況について御報告をいただきまして、戦略ⅠのMaOIフォーラム会員数が目標に対して若干遅れている以外は、戦略のⅡからⅥまで、ほぼ順調に推移しているということで、プロジェクト全体は非常にスムーズに順調に推移しているということで、大変心強く感じた次第でございます。
私からは１点ですけれども、戦略Ⅵの人材の育成・地域づくり・世界発信の項目の中で、美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会がございまして、その設立趣旨として、単に産業にとどまらず、観光や環境、地域づくり等も包含した海洋をテーマにしたネットワークを構築するという記載があるわけです。若干ちょっとピントが外れているかもしれませんけれども、昨日、私が陪席をさせていただきました静岡県の産業成長戦略会議においても、観光分野での取り組みにおいて、例えば今はコロナの感染状況が非常に拡大している中で中断しておりますけれども、観光産業の支援事業であります「今こそしずおか元気旅」の再開を通じた観光需要の喚起ですとか、それから中部横断自動車道を活用した山の洲４県、静岡、山梨、長野、新潟との域内観光交流の促進等の施策、あるいは食文化を活用したガストロノミーツーリズムを推進していくというようなお話もございました。
もちろんコロナの感染状況が一定程度おさまった状況という条件はつくわけございますけれども、県の掲げます観光施策と連携して取り組んでいけるもし部分があるのであれば、ぜひそれらをうまく活用して、海をテーマとした静岡県の魅力についても積極的に情報発信していただくように期待したいと考えております。

（橋本委員長）
貴重な御意見、どうもありがとうございます。引き続きよろしくお願いいたします。
次に、株式会社鈴与総研の中村部長、お願いできますでしょうか。

（中村 塁　委員・株式会社鈴与総合研究所管理部長）
資料は拝見させていただきまして、いろいろ見させていただいたんですけれども、弊社としまして、なかなかどのような形でこのMaOIの活動に貢献していくかというのは、まだ具体的な答えが見つからない状態であるということが１つあります。
ただ、1929年に清水港で、駿河湾で揚げたトロマグロを缶詰にして輸出したという清水食品の活動もありますので、今後、清水食品の方とも一度話し合いをしながら、どういう形で貢献していけばいいのかなというのを話し合う機会を持ちたいというふうに考えております。
やはり清水港というものを拠点にして活動しております弊社の鈴与グループでありますので、今後ともいろいろな形で貢献できるような形で協力させていただきたいなというふうに考えております。

（橋本委員長）
どうもありがとうございます。引き続きよろしくお願いいたします。

最後に、漁業協同組合連合会の髙瀬部長、お願いできますでしょうか。

（髙瀬 進　委員・静岡県漁業協同組合連合会指導部長兼漁業振興課長）

お世話になります。静岡県漁連髙瀬でございます。まず一番最初にお礼を申し上げたいと思います。私は昨年夏に MaOI のコーディネーター会議、定例会ですか、それから TECH BEAT Shizuoka で水産業界の問題点をお話をさせていただきました。

そうしたところ、コーディネーターの方がマッチングをしていただいて、資料の 21 ページにあげてくれてありますけれども、下の丸から２つ目の微生物カウンタの開発ということで、温水利用研究センターで飼料生物、プランクトンを飼っておるんですけれども、それのカウンタですね、それの開発を迅速に行ってくれまして、しかも予算も MaOI の FS の研究の予算をとっていただいたということで、非常に感謝をしているところでございます。ありがとうございました。こういうマッチングの機会をつくっていただけるのは、非常にありがたいというふうに業界でも思っているところでございます。

それから２点目でございますが、今、国が主導いたしまして魚の資源管理、数量管理ですね、これを進めようとしておりますけれども、一番重要なファクターは漁獲量になるんですけれども、それに足して環境変動の要因、これが非常に大きく影響するものですから、初っぱなからお話しありましたとおり、スルガベイ・シミュレータ、駿河丸、それから BISHOP ですね、科学的な海洋のデータを集積することに関しましては、非常にこういう資源評価の裏付けになりますので、ぜひいいデータの収集を行っていただきたいなというふうに感じております。

それから、冒頭に浜名湖のアサリの話が出ました。これは私は今ビジネスチャンスかなというふうに思っております。それはどうしてかというと、熊本の産地偽装のお話、中国、北朝鮮からアサリを入れておりましたけれども、浜名湖は恐らくですが、唯一日本の中でよそから、県内も含めて、よそから移植をしていない漁場でございます。

浜名湖の純血のアサリを飼っているということでございますので、今アサリ自体は日本全国で不漁の状態でございますけれども、今水産技術研究所、それから一般の企業さんも入って、アサリの増殖の研究をしていただいているということでございますので、そこにいろんな皆様の知恵を入れていただいて、浜名湖のアサリを増やしていただいて、漁連も浜名湖のアサリの出荷等々に関わっております。実を言うと、アサリの値が高騰しておるんですけれども、うちは取引価格というのがあって、あんまり値を上げられない今現状がございます。ですので、ここはやはり浜名湖ブランドということで、科学的に味がどう違うのかというものなんかも、MaOI さんの方で研究をしていただいて、価値向上を図っていけたらなというふうに思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

（橋本委員長）

非常に興味深いお話、どうもありがとうございます。後で多分先生方からそれについてのコメントが出るかもしれませんので、また議論させてください。ありがとうございます。

それでは、産業界の委員の方は一巡しましたので、学術系の方々ですね、たくさんおられますけれども、時間がぎりぎりになってますので、恐縮ですけど、大体１人２分ぐらいでまとめていただくとありがたいと思います。

まず、今日、初めて御参加いただいています日経 BP の西沢様、お願いします。

（西沢 邦浩　委員・日経BP総合研究所メディカル・ヘルスラボ客員研究員）
今日、初めての参加なので、まだちょっと何を申し上げたらいいかということがあるんですけれども、食とか健康を中心にした情報伝達をしているという立場から、きょう資料を拝見していて、乳酸菌とか発酵をテーマにして商品開発されているところに目が行きました。ただ、非常に人気も高い領域で、レッドシーになっている市場です。その中で例えば、なぜ駿河湾由来なのかとか、どんな特性を持った乳酸菌かといったことを、どうお伝えになられているのか気になりました。
これまでに自分が関わったケース、例えば気仙沼に荷揚げされるサメの肉の利用を水産庁のお仕事でお手伝いしたケースでは、特定の流通と中食を含めた商品開発や通販商品も進めながら、アカデミアとはヒトエビデンスの取得を行い、歴史的な利用法、逸話も含めたストーリーを固めて、一気にこうした情報をプレスリリースしていくというような手法をとりました。どうしても散発的な情報提供だと、なかなかメディアの目とかとまりにくく、消費者の認知も上がりにくいところがあると思います。せっかくこれだけユニークな仕組やキーワードでやられているわけですから、どうストーリーを構築し、どんな形で対外的に打ち出していくかが重要でないかと。消費者だけでなく流通もうまく巻き込んで商品やプロジェクトの魅力を伝えていくための仕組みづくりですね。そんなところで何かしらお手伝いができたらうれしいです。

（橋本委員長）
ありがとうございます。その辺は非常に大事なことなので、またぜひいろいろ御教示いただければと思います。
次は、水産研究・教育機構の石原先生、お願いします。

（石原 賢司　委員・水産研究・教育機構水産技術研究所環境・応用部門水産物応用開発部付加価値向上グループ長）
昨年度の会議に出されていただいて、そこから非常にさまざまなめまぐるしい展開があって、私としても驚いております。温水利用研究センター沼津分場の方が新しくされることは非常に喜ばしいことと思っております。ぜひ種苗生産とかは、割と職人芸的なものが残っていますので、人材の育成の方に力を入れていただければと思います。
私は水産･海洋技術研究所の方とはムーンショートプログラム等々でいろいろ御協力させていただいているところなんですけれども、今後それらを通じてMaOI機構さんなんかとも連携させていただければと思っております。

（橋本委員長）
どうもありがとうございます。引き続きよろしくお願いいたします。
次に、JAMSTECの出口センター長、お願いします。

（出口 茂　委員・海洋研究開発機構（JAMSTEC)生命理工学センター長）
JAMSTECの出口です。今日、進捗状況を聞かせていただきましたけど、すごくすばらしい進捗状況だと思いました。１つ手前味噌なんですが、マリンオープンイノベーション事業化促進助成に令和３年に採択していただいたケー･アイ化成とビタミンC60バイオリサーチがやられているカロテノイドの案件は、実はJAMSTECのバイオリソースを使っていただいている案件で、我々が事業化第１号として非常に期待していまして、我々がいろいろサポートしていて、MaOIの方もより強力にサポートし

ていただければと思います。
　微生物ライブラリーですが、これからやっぱりもっと利用数を増やしていくことが重要になると思うんですが、拝見しているとやっぱり食品関係の需要が多いように思います。これは JAMSTEC のバイオリソースもやはり同じです。食品とか食品添加物に関しては、ビックサイトで大きい展示会が年に何回も開催されているので、そういうところにブースを出されて、リソース提供は基本的にすごく地味な事業なので、しつこく宣伝するというのがすごく重要な気がしました。
　最後のスルガベイ・シミュレータは私すばらしい事業だと思っていまして、これは前から言っていますけれども、やっぱり駿河湾は富士山に降り注いだ水が最終的に流れ込んで育まれる海だというのがすごく大きなポイントだと、世界的にも訴求するポイントだと思うので、そういうふうなことがあのシミュレータを使って出せればすごくおもしろいなと思いました。
　最後に、国際的なネットワークの話は先ほど御紹介いただきましたけど、今国内でも例えば首都圏だと Greater Tokyo Biocommunity であるとか、地域のクラスターづくりが今すごく盛んになっていて、最近よく新聞報道でもあるんですけど、MaOI がそういう動きと何か絡んでいる案件があるのであれば教えてほしいなと思いました。

（橋本委員長）
　今の件は渡邉専務、何かありますか。神戸の件ですかね、例えば。

（渡邉 眞一郎　MaOI 機構専務理事兼事務局長）
　Greater クラスターについては、まだ仄聞しているぐらいで、直接今まだ関係は持たせていただいておりません。MaOI 自体が静岡県の中にとどまるだけではなくて、県内外の知見、国内外の知見も取り入れたいというのが大前提としてございますので、とりあえず今年度はまずは関西にということで、神戸に進出して PR もしてきました。今後も首都圏のさまざまな団体様ございますので、今回御紹介したような形で、少しこんなことをやってますと御説明させていただける具体的な案件も出てまいりましたので、そういったものを御提示しながら、仲間づくり、ネットワークづくり、これを広げてまいりたいというふうに考えております。

（橋本委員長）
　では引き続き、国立遺伝研の井ノ上先生、お願いします。

（井ノ上 逸朗　委員・国立遺伝学研究所ゲノム・進化研究系人類遺伝研究室教授）
　なかなか私どもが協力できていることが、今のところはないんですが、県とはコロナウィルスのゲノム解析を遺伝研が担っているんですけど、その点では県と協力体制は組まれているんですけれども、MaOI との関係でも、例えば先ほどから出ている、本当にやるとちょっと問題が出るかもしれないですけど、例えば浜名湖のアサリのゲノム解析をやってみると、そのブランド性を確実にするとか、いろんなことが確かにできて、できるとは思うんですが、もちろんコストの問題と、本当にそれが意味があるのかという問題、いろいろあろうかと思いますが、もしそういう需要がある場合は、我々遺伝研は協力することができるかと思います。

（橋本委員長）
どうもありがとうございます。また、御相談することがあると思いますが、よろしくお願いします。
引き続き、静岡理工科大学の久留島先生、お願いします。

（久留島 康仁　委員・静岡理工科大学総務部長／総合技術研究所地方創成担当部長）
今日、御報告いただいた内容をお聞かせいただきながら、このコロナの大変なときに、かなり積極的な活動になっているなというふうに感じました。グローバル的な面もそうでしょうけれども、ローカル的な面でのつながり、成果、こういうものを通して、静岡県主導でやっているという観点からすれば、県内企業さんにとって貢献できる活動にさらにつながっていくということが大切になっていくのかなという感じました。
MaOI サロンがたしか今年度２回行われていたと思います。このサロンの中で研究開発等で助成をしている内容を広く PR、説明をする中で、県内企業さんへの啓蒙とか、MaOI の PR とか、こういうところにつながっていくんじゃないかなと思います。研究開発中のものであれば、なかなか言えない部分、クローズにしておかなきゃいけない部分も多々あるかもしれませんが、せっかくこの MaOI が研究開発費を出しているということもあるので、その辺のところは途中途中でもいいとは思うんですが、やはり広く PR をしていって、自分たちも手を挙げたいなと思えるようなものにつながっていけばいいのかなと思いました。
それから、先生方が外部資金取ってきても、このコロナ禍の中で出張も行けない、物も買えない中で研究開発が遅滞して、研究費を翌年度に繰り越す場合、科研費などの補助金は、できるわけなんですが、万が一、MaOI でもお金の使い方に苦しんでいる企業や先生方がいる場合は、弾力的な予算の執行、運用できる制度構築していただき、いい成果につなげていくことにつながればいいなと感じました。

（橋本委員長）
重要な御指摘ありがとうございます。ぜひ県の方でいろいろ柔軟な対応をしていただきたいと思います。
次、県立大の酒井副学長、お願いします。

（酒井 敏　委員・MaOI 機構理事／静岡県立大学副学長／京都大学大学院教授）
県立大学の酒井です。今年度から引き継いでいるんですが、いかんせん県立大学の方が非常勤で、京都の方に本拠がありますので、いろいろ勉強させていただいている途中で、まだあまりよくわかっておりません。
ただ、実は私元々専門が海洋物理でして、海にはかなり興味があります。そして実は清水出身で、この後ろに写っているのも、うちの実家の近くから撮った折戸湾なんですけど、折戸湾のいかだの上を遊び場にしていた人間なので、海にも静岡にも思い入れがあって、この MaOI 機構には非常に関心を寄せているところであります。今後もよろしくお願いします。

（橋本委員長）
よろしくお願いします。地元出身ということで、非常に心強いと思いますので、引き続き御指導をお願いします。静岡大学の河岸先生、よろしくお願いします。

（河岸 洋和　委員・静岡大学グリーン科学技術研究所教授）
今日のいろいろ御報告聞いて、いろいろ出口に近いものがいっぱい出て、すごいなと思いました。一方でやっぱりいつも私は言うんですけれども、やっぱり本当のオリジナリティの高いいろんな研究開発というのは、やっぱり基礎研究もすごい大事だということで、そういう意味では、今回このプロジェクトの中ではシーズ研究とか、そういうところがそこを担っているんだと思います。
その中で、私も一部参加しているんですけれども、例えば学術論文での発信は、県民の方々とか、世界や日本全国に発信するには大きな力になるので、その辺の情報をうまくどんどんこの機構で発信できるようなシステムがあってもいいかなと思いました。

（橋本委員長）
ありがとうございます。きょうは資料が用意できてませんので、御指摘についてはMaOI機構とも相談して、しかるべき対応を、五條堀先生に御指導いただいていますので、かちっとやっていただけると思います。ありがとうございます。
次に、東京海洋大の吉崎先生、お願いできますでしょうか。

（吉崎 悟朗　委員・東京海洋大学学術研究院教授／水圏生殖工学研究所長／マリンバイオテクノロジー学会長）
魚の養殖関連の人間といたしましては、沼津の温水利用センターの一部が完成したということで、非常に喜ばしく思っております。一昔前までは、県の試験場はかなり放流種苗の生産に追われて、結構ぎちぎちで仕事をするというようなことが今まで多かったと思うんですけれども、こういう新しい施設を使って、県として攻めの種苗生産というか、今までやってきたマダイ、ヒラメとかそういうものももちろんあるとは思いますけれども、次の時代の県のお宝になるような新しい魚種にチャレンジをしてほしい。
今まではやっぱり種苗をつくれるということが新しい養殖のスタートで、種苗が手に入るということが大事だった。それが例えばハマチ養殖とかの基礎だったわけですけれども、今の御時世、本当にかなりいろんな魚の種苗をゼロからつくれる時代に今なりつつあると思うので、そういう意味ではこういういい施設を使って、どんどんチャレンジして、将来の静岡県の新しい名産みたいなものを生み出せていただけるといいなということを思いました。
あとは、我々がお世話になっているプロジェクトを通じて、水産技術研究所と一緒にいろいろお仕事させていただいている中で、ちょっと思ったことは、結構技術研究所の中にゲノム情報とかお宝が意外に眠っているなということがちょっと気になりました。極力こういうのはタイムラグなく、いいタイミングでオープンにしていくことが大事だと思いますので、例えばMaOIのシステムとかをうまく利用しながら、うまく世界の人が使用しやすいような形でオープンにしていただくということも大事かなということを最近感じております。

（橋本委員長）
貴重な御意見ありがとうございます。BISHOPの中でやっていくべき問題だと思いますので、引き続き県とも相談して進めたいと思います。ありがとうございます。
続いて、農工大の田中先生、お願いできますでしょうか。

（田中 剛　委員・東京農工大学工学研究院教授）
今日お話、報告を聞かせていただいて、ほかの先生もおっしゃられていたと思うんですけれども、ベーシックから実用化研究に近いところまで、上流から下流まで包括的にやられているなという印象で、取り組みとしてすごいなというふうに思いました。
私自身はBISHOP研究で駿河湾の多様な地点からの植物プランクトンだとか、動物プランクトン、網羅的に解析する研究を今やらせていただいているんですけれども、そういった観点からも、ほかの先生がおっしゃっていることと近いんですが、やっぱりスルガベイ・シミュレータというのは非常に魅力的で、そういったシミュレーションの的確な、恐らく最初の一次生産者に直結するものなので、ぜひ統合的に解析して、恒久的に利用できるようなデータベースとして残していくような、本当に強力なツールになるだろうというふうに思いました。
多分今でき上がったものはバージョン1.0で、今後２、３とやっていく上で、いろんな研究開発を多分進める必要があると思うんですが、ぜひそういったところにも学術界としても参画して、よりいいものをバージョンアップしていくというのを一緒にディスカッションしながら進めていくような機会を設けていただけると、お互いにとって運営委員のオープンイノベーションの本当の形になるんじゃないかなと思って聞かせていただきました。

（橋本委員長）
ありがとうございました。引き続き御指導よろしくお願いいたします。
次に、笹川平和財団の角南理事長に来ていただいていますので、角南先生、お願いします。

（角南 篤　委員・笹川平和財団理事長／政策研究大学院大学学長特別補佐）
本当にコロナ禍の中で、あっという間の３年という感じなんでしょうけれども、特に海外との連携については、当初から非常に重要なポイントになると思っていて、その中でなかなかコロナということもあって難しかったと思うんですが、そろそろ世の中動き出していると思いますので、今年ぐらいから積極的にいろんな研究拠点と連携をしながら、まさにオープンイノベーション・プラットフォームをつくっていただければいいのかなというふうに期待していますので、よろしくお願いします。
それから、これも多分地元の方は御案内かもしれませんけれども、駿河湾のスマートオーシャンということで、自由民主党の国会議員の方々が集まって議連をつくりました。そういう中でも、このMaOIの活動は非常に重要な中核になるだろうというふうに思っていますので、うまく国政でのそういった動きと、これも利用しながら、当初のミッションを実現していっていただければというふうに思っています。

（橋本委員長）
ありがとうございます。今おっしゃったのは参考資料に付いていますこれですかね。

（角南 篤　委員・笹川平和財団理事長／政策研究大学院大学学長特別補佐）
はい。有識者として東海大学の山田学長、それから海洋大の副学長、それから東工大の副学長、結構幾つか大学の関係者の皆さん参加されていました。

（橋本委員長）
ありがとうございます。こうした動きもすごく MaOI としても大事なもので、引き続き対応していきたいと思います。
引き続きまして、早稲田大学の矢澤先生、お願いします。

（矢澤 一良　委員・MaOI 機構特任コーディネーター／早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構規範科学総合研究所ヘルスフード科学部門長）
まとまったお話を聞かせていただきました。ありがとうございます。
私の方は、事務局の方と月１で Zoom で情報交換をさせていただいておりますので、割とこまめに情報をいただいたりしております。特任コーディネーターということでかもしれませんけれども、何かお役に立てばというふうに思っております。
私のライフワークには食による予防医学ということで、昨年の６月に MaOI のセミナーとして最初にお話をさせていただいたんですが、そのテーマが「マリンビタミン」ということなんですね。マリンは海ですが、マリンビタミンなんていうビタミンはどこの教科書にも出ていません。ビタミンのように、単に栄養になるだけではなくて、機能性を発揮するものが海の中にたくさんあるでしょうということで、そういったものを総括してマリンビタミンをもっととろうよ、それによって最終的に健康を維持し、そして予防医学に資するというところでのお話をさせていただきました。
結局、MaOI が目指すところの１つの最終ゴールって何かというと、やっぱり国民の健康ということだろうと思うんですね。健康、福祉、あるいは幸福感かもしれませんね。そうなるといわゆるウェルネスとか、ヘルスサイエンスといったことがすごく大事なことだと思います。その意味でフーズヘルスが出ていらっしゃいますし、ファルマバレーも出ていらっしゃるんだけれども、言いたかったことは、そういった予防医学の医の字がついていますけれども、この予防医学を実践できるのは医学ではない、薬学でもない、食と栄養、あるいは運動と休養ということを含めますが、その部分だと思います。
したがいまして、今日のお話をいただいた中で、医学の医の字も出てこないというところが非常に危機感を持っています。もっと取り入れるべきじゃないか。例えば農業で言えば、医農連携というのは非常に各地でやっています。それから医工連携ですね、工業ですね、工学系ですね、であるならば医水連携というのがあってもいい。医学と水産との関わり合いというのをもっと考えてくれてもいいんじゃないかなというふうに思っているわけです。
医というのは、治療というよりも予防医学の医の字の方を指しているわけですので、もう少しこの会議なんかにも、コーディネーターでなくてもいいんですが、意見を言っていただける医療系の先生方、もしくは病院の院長でもいいですが、そういう方がお入りになっていただいて、意見を述べていただくことも大事じゃないかなと思います。
確かに、海洋マイクロプラスチックもそうですし、いろいろなことが海の環境なり何なりというのは、何のためにやるのか。やっぱり人の健康のためだというふうに、僕の視点から言うとそうなるわけですね。そういうことからすると、健康って一体何だということを見つめ直すためにも、ぜひそういう医水連携的なことがあってもいいかなということを、今日、皆さん方のお話を伺いながら感じた次第です。

（橋本委員長）
きょうはお呼びしてないらしいんですけれども、元々、がんセンターの山口総長もこの委員会の顧

問格でおられますので、ときどき御意見を伺っているというふうに聞いてます。今日、ファルマバレーのセンター長も来ていただいていますけれども、いただいた御意見、非常に重要な観点ですので、今後もその方向で検討を進めていっていただきたいと思います。

それでは最後、一応順番では最後になりますが竹山先生、包括的にまとめていただければと思いますけれども、御意見お願いします。

（竹山 春子　委員・早稲田大学理工学術院教授／マリンバイオテクノロジー学会理事）

本当にスタートのときから、今まさに上り調子になってきたんだなというのがとても感じています。県外からの参加者ももちろんいますけれども、県の中での産業展開とか、県の中のアカデミアの人たちとか、まずは県の中に大きな今ムーブメントが起こりつつあるんだなというのを感じています。

ただ、やはり県だけでなく、ステージを変えていかなきゃならないと思います。国際連携もそうですし、日本全体を考えた戦略というのもあるでしょうし、それはベーシックサイエンスも含め、アプライアンスサイエンスも含め、そしてイノベーション、産業化というのが、これが切れ目なくどんどん進んでいくような時間軸を持って進めていただければなと思っています。

私自身もMaOIは開所のときに行かせていただきましたので、まだまだスペース的にも小さくて、今回これだけの成果を出すというのは、あの小さいスペースの中ではほど遠いぐらいの成果だと思うんですね。今後MaOI自身が、世界のMaOIという名前が国内外で波及するためには、場所的・人的サポート、MaOI自身がある程度独立的に研究が進められるような体制、外部資金導入など、いろいろな課題があると思います。

ただ、皆さんいろんなステークホルダーの方が今回メンバーに入っていらっしゃいます。そういう先生方のサポートや静岡県のサポートにより、多角的なところをうまくブリッジがかかって、地域のいろんなセンターが有機的に今後つながるために、この委員会が非常に重要なポイントになってきたんだなとも思っております。

橋本先生、すごく調整大変かなと思いますけれども、ぜひこの有機的に、形骸化しない委員会というのを推進していただければなと思います。

今日、矢澤先生がおっしゃった健康とか医療とか、やっぱり環境だけじゃなくて、私たちがどうやって幸せになるかということは、非常に重要なことだと思いますし、ビジネスに直結しやすいので、せっかく静岡がんセンター、ファルマバレーもありますので、そこの連携というのもこれからも注力していただければなと思いました。

（橋本委員長）

ありがとうございます。AOI機構の岩城専務、お願いできますか。

（岩城 徹雄　委員・アグリオープンイノベーション機構（AOI機構）専務理事兼事務局長）

AOI機構、ビジネス展開の方をMaOI機構さんとともにやっていて、少しでも多くの成果が発揮されますよう、頑張っていきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

（橋本委員長）

どうもありがとうございます。若干あと予定では５分ちょっとありますので、もし言い足りないことがあったら、ぜひこの機会に御発言いただければと思いますが。守屋先生、お願いします。

（守屋 繁春　委員・理化学研究所環境資源科学研究センター専任研究員）
先ほどの県商工会の窪田様がおっしゃられていた、商品化で小さいロットを生産できる仕組みという話を聞いていて思ったんですが、ちょっとそのコンセプトは外れちゃうかもしれないですけれども、食品化のときは、成分検査とか、安全性試験なんかについて、非常にお金もかかるし、項目も多い。僕の場合、昆虫食でそれをやろうとしているんですが、食経験がない資源を活用しようとすると、もうお金が幾らあっても足りないとか、そもそも何調べていいのかもわからないとか、保健所に聞いても、全然そういうのはうちではやってません、みたいに言われちゃうということが多いんですね。
ここで、例えば県の試験場とかでその辺を対応することができると、中小企業とか、スタートアップが参入できる。例えば新しい微生物で発酵食品をつくるとか、新たな高機能食品として微細藻類を使うみたいなことが、爆発的に増えるという可能性もあるんじゃないかと思うんですね。
なので、そういうふうな可能性を少し考えると、中小企業のような、まさに地域に密着した、しかも新しい、完全に新しい食品とか機能性食品というものを世に出せるんじゃないかと思うので、ぜひ考えてみていただけるとありがたいかなと思います。
あともう１つ、同じように地域貢献なんですけれども、さっき駿河丸の話ちょっとあったんですけど、調査のためのシップタイムを獲得するという意味では、前々から何回もしつこく言っているんですが、漁船の用船による海洋調査とか探査なんかの可能性についても考えてもいいのではないかなというのも、付加的な意見として言わせていただきます。

（橋本委員長）
ありがとうございます。今のお話は県とか研究所の方で何かコメントございますか。急に言われてもあれかな、貴重な御意見だと思いますし、おっしゃるとおり、食品の安全性というのは、非常に奥が深くて、私も実はOECDのバイオ食品の安全性委員会に出ていたんですけれども、要は既存の食品、伝統的な知見の上に成り立っているので、おっしゃるような新規食品というのは、多分その考えだけでは手が出ないんですよね。ですからやっぱり新しい考え方を科学的にやっていかなきゃいけないという意味では、すごく難しいけど、重要なことだと思いますし、必要なことですね。

（守屋 繁春　委員・理化学研究所環境資源科学研究センター専任研究員）
ゲームチェンジングなものにチャレンジしたかったら、その辺の手当てがないと、恐らく大企業が参入しなければ、何も立ちゆかないということになってしまうので、県の水産を盛り上げるという意味では、その辺の考えというのは必要かなと思いました。

（橋本委員長）
おっしゃるとおりですね。ありがとうございます。そのほか、最後に何かコメントとか御意見ございますか。よろしいですか。ありがとうございます。
皆様の御協力により、皆様から御意見、御質問をいただいた上で、何とか時間内に終わりそうですが、最後に私の方で総括をしろというふうに指示がございましたので、総括をしますけれども、今日、資料を非常に簡単に短い時間で説明していただきましたけれども、非常に盛りだくさんな内容をこの３年間で進めてきたことを皆さん御理解いただいたと思います。
その上で、元々の戦略ビジョンを見ますと、大体方向性としては戦略ビジョンに沿った形で活動ができているんですけれども、きょう御議論いただいた、例えば先ほどの角南先生に御披露いただいた

スルガベイスマートオーシャンイノベーションの動きとか、これは今急に、ちょっと政治的ではありますけれども、動いておりますし、それから冒頭御議論ありましたシミュレータ、それからその先の駿河湾DXですね、こうした新しい動きがここ最近急に出てきておりまして、こういうことにも対応してMaOIプロジェクト動いていくべきということだというふうにきょう理解しましたので、その点も含めて、できれば県の事務局の方で御検討いただいて、例えば来年度、この戦略のちょうど真ん中の年になりますので、中間見直しみたいな形で計画の修正というか、追加ですよね、こういった方向で進めていただければと思うんですけれども、よろしいでしょうか。

（山田　静岡県経済産業部産業革新局産業イノベーション推進課長）
御意見を踏まえまして、また来年度検討していきたいと思います。

（橋本委員長）
では事務局の方で、今日の御意見を踏まえて見直しの方向で事務局でお考えいただいて、また委員の皆さんにも御相談するということにさせていただければと思います。
あと、毎年その評価をやることになりましたので、今年度の評価につきましては、追加でいろいろコメントはいただきましたけれども、特に根本的なところで評価が外れているとかいう御指摘はございませんでしたので、あとは私委員長とそれから事務局の方で最終報告、今年度の報告ということで責任を持って進めさせていただきたいと思います。
今日は非常に限られた時間でしたので、今日の御発言以外にもし追加の御意見、コメント等ございましたら、事務局の方にお気軽にお問い合わせいただきたいと事務局が申しておりますので、よろしくお願いします。
以上をもちまして議事についてはこれで終了ということで、皆様に円滑な進行に御協力いただいたことを感謝申し上げて、事務局にお返ししたいと思います。よろしくお願いします。

（事務局）
委員の皆様におかれましては、長時間にわたっての御議論ありがとうございました。
橋本委員長からお話のありましたとおり、本日頂戴しました貴重な御意見につきましては、評価書の取りまとめ、及び第１次戦略の中間見直しに反映した上で、来年度以降のMaOIプロジェクトの取り組みに反映させていただきたいと思います。
最後に、MaOI機構からお知らせがございます。

（渡邉 眞一郎　MaOI機構専務理事兼事務局長）
改めましてMaOI機構の渡邉でございます。本日は私どもの進めておりますMaOIの取り組みにつきましてコメントいただきましてありがとうございました。また、さまざまな個別の局面で皆様には御指導賜っているところでございまして、繰り返しになりますけれども、御礼を申し上げますとともに、引き続き今後とも御指導賜ればありがたいというふうに思っております。
そんな中で、きょうもさまざまな取り組みについて資料を提供させていただいておりますけれども、実は第４回のMaOIセミナーというのを３月14日開催予定で、今準備を進めているところでございます。こちらも可能であれば御参集をいただき、ハイブリットの形でリアルとオンラインとをあわせた形での開催を今は予定しておりますが、そちらの中で研究チームが行っている取り組みについての概

要、またコーディネーターがどのような取り組みをしているのか、こういった実績につきましての御報告と、あわせて講演会ということで、東大の小林武彦先生『生物はなぜ死ぬのか』という著書がベストセラーになりまして、話題になっている先生でございますけれども、このバイオ系の話というふうなことで講演をしていただきます。私どもの実績の御報告と講演、抱き合わせのセミナーを予定しておりますので、委員の皆様方にはぜひ御参加をいただきまして、またそこで感じたことなどを御指導賜ればありがたいというふうにも思っております。お願いかたがたではございますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）

それでは、以上をもちまして令和３年度マリンオープンイノベーションプロジェクト戦略推進委員会を終了といたします。長時間にわたる御審議、誠にありがとうございました。